

バックアップあるの？

トマス・カルダ

高校生の時、J E T Sという科学のクラブに入りました。サイエンス・オリンピックに^{さんか}参加して、他の高校のチームと^{きょうそう}競争しました。私はサイエンス・オリンピックでロボットアームに^{さんか}参加しました。^{きょうそう}競争で^{さんか}参加者は二人で、一セント^{こうか}硬貨を^{せいかく}正確に^{いどう}移動できるロボットアームを作ります。作ってプログラムするのがが難しすぎて、これまでJ E T Sの誰もできませんでした。

でも、私ならできると思いました。それで、^{がんば}頑張ってプログラミングしました。三日後、プロトタイプを終わりました。リーダーたちはとても^{かんだう}感動して、すぐチームに私を入れてくれました。

チームにいたけど、私は^{じしんかじょう}自信過剰な一年生でした。パートナーがいるのはちょっと忘れてしまって、たくさんの仕事を一人でしました。

コンペの会場は^{かいじょう}ライス大学でした。その前日、パートナーと私は一緒にロボットを作ってから、テストをしました。ロボットを^く組み立てたり、コンピューターにコードを入れたり、電池を入れたりしました。それから、モーターを入れ始めました。でも、「まず

い！」モーターから煙^{けむり}が出ました。私はモーターを間違^{まちが}った方向^{ほうこう}に入れてしまったので、モーターは壊^{こわ}れてしまいました。

「えっと、バックアップあるの？」とパートナーに聞きました。もちろんそんなことはありません。実はこのモーターはとても高いです。「どうしようか。」

でもその時お父さんがオンラインで次の日へオーダーしてくれました。本当に助けてくれました。

コンペの日、私は緊張^{きんちよう}していました。ロボットアームを一人で準備^{じゆんび}しました。でも、最悪なことをしてしまいました。心臓^{しんそう}がドキドキしました。そして、モーターから煙^{けむり}が出ました。同じ間違いをしてしまって、新しいモーターも壊^{こわ}れていました。

パートナーが部屋に入った時、叱^{しか}られると思って、怖^{こわ}くなりました。でも違いました。パートナーは、大丈夫と言ってくれました。

その時、一人で全部をしないと決めました。この経験^{けいけん}は、一人で全部をやらないで、パートナーと一緒に働くことが大事だと教えてくれました。その年の後半^{こうはん}、全国大会に出られて、J E T Sが六番のチームになりました。とてもすごかったです。